

あの恐怖をまだ覚えているでしょうか。今からちょうど四年前、平成七年一月十七日午前五時四十六分、淡路島北部を震源地とするM7.2の直下型巨大地震、いわゆる「阪神大震災」は、兵庫県・大阪府に未曾有の大惨事をもたらせました。

徳島県においても、県北部とくに鳴門市において被害が多で、

鳴門市災害救助

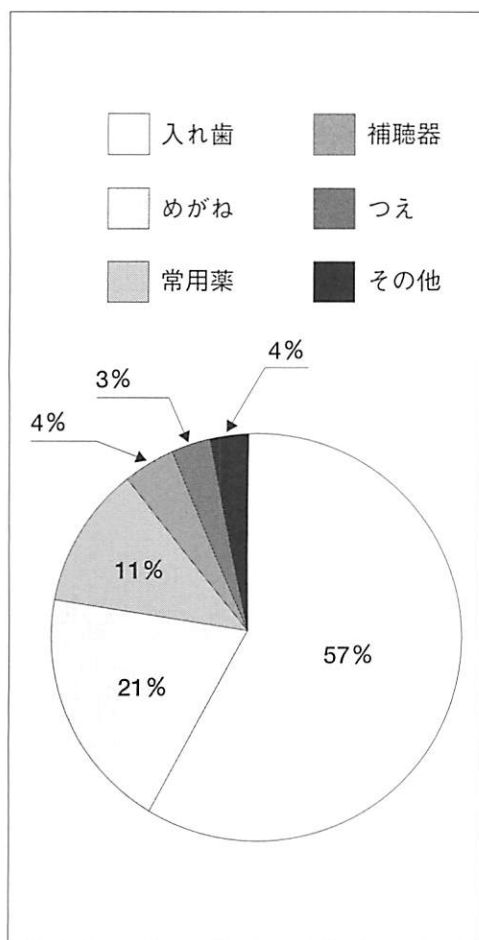
本部の調査では、負傷者十八人、住居の破損が千二百二十五世帯となつています。

また、鳴門市

における体感震度は、同じ震度4の徳島市はじめ県内他市町村にくらべて相当大きかったようで、地震後も住民の恐怖は依然大きく、とくに高齢者の方にとっては、メガネ・補聴器・入れ歯をはじめとする日常生活必需品の保管に不安を覚えているとの声が多く聞かれました。

大地震と入れ歯

夜は取り外して寝よう



地震発生時に紛失して困るものは？

そこで、県歯科医師会と県歯科衛生士会は、歯科保健指導事業を実施している徳島県鳴門市内の老人会会員等、入れ歯をいれている高齢者の方に、阪神大震災の直後、『地震と入れ歯』に関する緊急アンケート調査を行いました。

「地震発生時に紛失して困るもの」について日常生活必需品に限った調査では、「入れ歯」五七%、「めがね」二二%、「常用薬」一一%、「補聴器」四%、「つえ」三%という順序になりました。入れ歯以外を回答された方のコメントは、「身障者四級なので、めがねがないと逃げられない」「狭心症や高血圧で薬がはなせない」「補聴器がないと聞こえないので、怖い」「人工骨を入れてるので、つえが絶対必要」などであり、地

震発生時の避難に際して、生命の危険防止のための必需品をあげた方がほとんどでした。

阪神大震災発生時には、早朝で目覚めていた人が多く、鳴門市では入れ歯が壊れるような家屋の被害がほとんどなかったこともあって入れ歯をなくした人はゼロでしたが、地震に備えて夜は入れ歯を入れて寝ると言う声もあります。

県歯科医師会などの歯科保健指導では、例外を除いて入れ歯は夜間取り外して寝る方が良いとしています。入れ歯は高齢の方にとって絶対にはなくてはならないものですが、百年に一度か、いつ起こるかかわからない地震のために入れ歯を入れたまま寝るより、せめて夜寝ている間は外して、一日中力が加わって押さえられていた歯ぐきを開放させて、歯ぐきの血流を回復させた方が歯ぐきの健康の維持には良いと考えています。

「ご存じ口腔ケア」シリーズは、今回休ませていただきます。

徳島県歯科医師会

口腔保健センター部